

The 271th Hokuriku Srgical Society

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/46698

『学会開催報告』

第271回北陸外科学会

The 271th Hokuriku Surgical Society

金沢大学医薬保健研究域医学系先進総合外科
(第一外科学)

竹 村 博 文

平成28年9月3日(土)、金沢大学宝町キャンパス医学類G棟において、第271回北陸外科学会を開催させていただきました。酷暑のなか、会場内の熱気も相まって学会場の空調を最大にして会が開催されました。

本学術集会は研修医や若手の先生を中心に、日常診療で経験した珍しい症例や示唆に富む症例を発表していただく会となっております。北陸3県で外科医となった医師の初めての学会発表が当会となることも多く、研修医や若手医師の登竜門としての意義もあります。

今回の学会は石川、富山、福井の北陸3県の各外科施設より48演題の発表、および北陸3県の研修医・外科医師98名の参加があり、盛大に行われました。開会に先立ち、当番会長の金沢大学先進総合外科教授 竹村博文から開会の挨拶の後、心臓血管、呼吸器、上部消化管、下部消化管、肝胆膵、乳腺、小児外科の各領域にわかれ、それぞれ3～7演題の発表が行われました。発表演題としては多数症例の検討や、新たな術式の紹介なども見られますが、症例報告が中心となっており、今回も48演題うち40演題が症例報告となっています。第一会場、第二会場にわかれ、座長も卒後15年から20年目の(座長としては)比較的若手の先生にお願いするのも本学会の特徴となっております。各会場では活発な質問、討論が行われました。

発表内容も多岐にわたり、
『当院における腹腔鏡下噴門側胃切除術の適応と手技』
『胸骨下单孔式胸腔鏡下前縦隔腫瘍切除術の経験』
『胸腔鏡下手術で治癒した横隔膜弛緩症の1例』
『腹腔鏡補助下に切除した巨大メッケル憩室炎の1例』
といった、近年盛んに施行されるようになった腹腔鏡、胸腔鏡を用いた低侵襲手術についての発表から、『胆道造影を用いてex-vivo splittingを施行した脳死分割肝移植の1例』など肝臓移植に関する発表、さらには、『心血管系ハイリスク早期胃癌患者の対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の1手術例』といった、心臓領域、消化器領域にまたがる演題など、幅広い分野からの発表が散見されました。

本会は午後1時から半日の日程で行われ、特別講演や、シンポジウム、ランチョンセミナーなどは開催されませんでしたが、日頃専門分野以外に触れる機会のない外科医にとって、地方会規模で広い分野の議論に参加できる非常に貴重な機会であったと思われます。

本学会は今回で第271回目の開催となります。近年では年に1回の開催ではありますが、平成18年までは年に3回から多いときは年に5回開催されておりました。本会の歴史は古く、現有している過去の記録をさかのぼると昭和29年に第70回が施行されておりますので昭和初頭から開催されていたと推測されます。当時は、北陸外科集談会として本学医学部が中心となり、外科だけでなく整形外科、脳神経外科地方会も合同で開催され、また開業医の先生方の参加も多く見られたと記載されています。当時の手書きの抄録には、

『縦隔腫瘍の1経験例』

『胃破裂の1死亡例』

『臍頭十二指腸切除術の1経験例』

『脳外傷の1例』

『踵骨鴨嘴骨折の1例』

など、外科領域以外にも、脳神経外科、整形外科に関する演題も多数発表されております。

発足当初は富山、石川、福井の3県に大学医学部としては金沢大学医学部が唯一の存在でありましたが、昭和50年代に入り、富山医科薬科大学、福井医科大学、金沢医科大学の開学に伴い、現在の北陸外科学会として新しい活動を始めることとなっております。また平成9年までは内科、外科、整形外科、脳神経外科、眼科はじめ臨床各科と、病理学、リハビリ医学などありとあらゆる領域の分科会を融合し、北陸医学会総会として年に1回開催されていた記録があります。

本会で発表された演題の抄録は日本外科学会雑誌に掲載されていましたが、やがて掲載されなくなりました。本会の活動を記録に残すために、昭和57年に北陸外科学会誌の第1巻が創刊され、当会での演題の抄録と、その発表内容を論文とし、紙上発表されることとなっています。昨平成27年に第34巻が発刊されております。

平成10年代の抄録集を紐解いてみますと、60演題から多い回では90演題もの発表がなされており、近年やや発表演題が少なくなっているのが懸念されます。しかし、昭和20年代から一貫して症例報告を中心とした臨床医として非常に大切な議論、勉強の機会として、さらには北陸3県の若手外科医の貴重な学会発表の場としての意義は薄れることなく、脈々と受け継がれております。今後もこの伝統の灯が途絶えることなく後世に受け継がれ、さらに発展していくことを願ってやみません。

最後になりますが、本学会の開催にあたり、北陸3県の外科医の先生方、運営に多大なご協力・ご協賛いただきました企業・団体各位ならびに金沢大学十全医学会の皆様方には、金沢大学先進総合外科のスタッフと共に心より熱く御礼申し上げます。

